

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健			17643	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
狐塚 善樹	選択	2	小児科医 インフェクションコントロールドクター (感染管理)			

## 授業の到達目標

小児科医は「子どもの総合診療医」、「育児・健康支援者」、「子どもの代弁者」などとされており、子どもの疾病だけでなく、子どもの健全な発育を総合的に支援することが必要とされている。これらことは小児科医に限られたことではなく、子どもに専門的に関わる者に置き換えても共通する部分が多い。子どもの特徴、成長発達、病気の経過、子どもを取り巻く環境の理解などを深める必要がある。そのため以下の項目を理解する。

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を目指す。

## 授業の概要

子どもは大人のミニチュアではないと言われる。子どもを理解する上で総論的な観点から、共通認識としての用語の定義、生物としてのヒト及びその生理、現在の社会環境及び社会制度（統計、各種子育て支援など）、体・情緒のwell-being、それらへの関わり方や役割などを理解する。それらを基礎として各論に進む。子どもの発達は発育段階で異なると共に、身体発育と生理機能発達、運動機能発達、心の発達が互いに関係し合っている。これらの発達は理論的に説明できることもあり、丸暗記ではない実際に役立つしつかりとした責任ある知識を身につける必要がある。このいわゆる正常発達の知識に基づいて現在の子どもの健康状態を把握する。子どもの疾患の病態生理、特徴を理解して、その予防（予防接種、感染対策など）、対応（初期対応、事後対応など）を理解する。以上の知識に基づいて、ある時にある子どもを観て、今の状態がどうか、何が必要かを適切に対応でき、また保護者に説明できることを学ぶ。

## 授業計画

- 1 子どもの心身の健康と保健の意義（1）生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
- 2 子どもの心身の健康と保健の意義（2）健康の概念と健康指標
- 3 子どもの心身の健康と保健の意義（3）現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
- 4 子どもの心身の健康と保健の意義（4）地域における保健活動と子ども虐待防止
- 5 子どもの身体的発育・発達と保健（1）身体発育及び運動機能の発達と保健
- 6 子どもの身体的発育・発達と保健（2）生理機能の発達と保健
- 7 子どもの心身の健康状態とその把握（1）健康状態の観察
- 8 子どもの心身の健康状態とその把握（2）心身の不調等の早期発見
- 9 子どもの心身の健康状態とその把握（3）発育・発達の把握と健康診断（Ⅰ）
- 10 子どもの心身の健康状態とその把握（3）発育・発達の把握と健康診断（Ⅱ）
- 11 子どもの心身の健康状態とその把握（4）保護者との情報共有
- 12 子どもの疾病の予防及び適切な対応（1）主な疾病の特徴（Ⅰ）
- 13 子どもの疾病の予防及び適切な対応（1）主な疾病の特徴（Ⅱ）
- 14 子どもの疾病の予防及び適切な対応（2）子どもの疾病の予防と適切な対応（Ⅰ）
- 15 子どもの疾病の予防及び適切な対応（2）子どもの疾病の予防と適切な対応（Ⅱ）

## 授業の方法

スライド講義を中心とする。スライド配布資料を用い、症例、症状検討も行う。新聞、雑誌、ネットなどの子どもに関する情報（感染、制度、社会問題など）は常にチェックしておく。

## 準備学修

Webで参照すること。

## 課題・評価方法、その他

### ①課題

講義内容のまとめ、提示課題、症例、症状検討のレポートの提出（全3回以上）を求め、講義の中でフィードバックを行う。

②評価方法について、  
平常点30%、定期試験70%

## 欠席について

講義は前回の内容を理解している事を前提に進めて行くので、連続性が必要で、欠席は減点対象とする。但し、一般的に出席停止（インフルエンザなど）となるものは欠席としない。欠席は3点減点、遅刻は1点減点。

## テキスト

テキストは特定の本は指定しない。基本的には講義内容のスライド配布資料とする。

## 参考図書

子どもの保健Ⅰ 佐藤益子／中根淳子編著 ななみ書房  
 子どもの健康と安全 「最新 保育士養成講座」総括編集委員会／編 全国社会福祉協議会  
 保育者・養護教諭を目指す人のための 子どもの保健 ～健康と安全～ 大澤真木子／小國美也子 日本小児医事出版社  
 保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省編  
 幼稚園教育要領解説 平成30年3月 文部科学省

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
精神疾患とその治療			17851	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石川 慎一	選択	2	精神科医師			

### 授業の達成目標

公認心理師にとって必要な知識である代表的な精神疾患の症状・経過・治療に関して理解する。

- (1) 精神疾患の診断方法について説明できる。
- (2) 精神疾患の薬物療法、心理療法について説明できる。
- (3) 主要な精神疾患の特徴的な症状と経過について説明できる。
- (4) 主要な精神疾患の治療について説明できる。
- (5) リエゾン精神医学、多職種連携について説明できる。
- (6) 公認心理師の精神科医療における役割や支援について説明できる。

### 授業の概要

公認心理師にとって必要な知識である代表的な精神疾患の症状・経過・治療に関して学ぶ。

精神医学の考え方、精神医学的診断、精神疾患の治療方法である、薬物療法（向精神薬の種類、心身の変化等）や心理療法（心理療法の種類、本人や家族への支援等）等について概説する。また、代表的な精神疾患について成因、特徴、症状、経過、治療について解説する。さらに、精神医学の応用例として、コンサルテーションリエゾン、多職種協働、医療連携について学び、公認心理師の精神科医療での役割や業務について理解する。

### 授業計画

- 1 精神疾患とは
- 2 精神症状のみかた・精神疾患の診断
- 3 精神疾患と薬物療法
- 4 心理療法について
- 5 統合失調症
- 6 うつ病、双極性障害
- 7 強迫症、不安症群
- 8 適応障害
- 9 神経発達症群
- 10 児童・思春期における心理的問題
- 11 女性の心理的問題
- 12 高齢期における心理的問題
- 13 公認心理師の役割
- 14 リエゾン精神医学、多職種協働

15 まとめ

### 準備学習

Webで参照すること

全ての事前学習：テーマについてテキストを読み、関連箇所をまとめておくこと（90分）

全ての事後学習：学習内容の復習と課題（90分）

### 授業の方法

テキストを用いた講義形式で行う。毎回課題が出される。

### 成績評価の方法

毎回の課題60%  
学期末課題レポート40%

### テキスト

公認心理師カリキュラム準拠 精神疾患とその治療/三村将ら編/医歯薬出版

### 参考文献

専門医がやさしく語る はじめての精神医学 改訂第2版/渡辺雅幸/中山書店/2007

### 留意事項

本講義は公認心理師カリキュラムの必修科目である。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人体の構造と機能及び疾病			17855	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
狐塚 善樹	選択	2	小児科医 人間ドック認定医 日本医師会認定産業医 インфекションコントロールドクター (感染管理)			

### 授業の到達目標

世の中には医学に関する知識や情報が溢れており、中には明らかに間違っているものもある。それらに惑わされず、病気を正しく理解するには、子ども大人にかかわらず、まず基本である人体の構造（解剖）、生理機能を理解する必要がある。その上で、その異常状態（疾病）の原因や成り立ち、経過を理解する（病態生理）。また、近年がんの生存率の向上、難病の生活の質の改善により社会復帰が可能となり、それらをサポートする体制の改善と社会の理解も必要とされている。そのために以下の項目を理解する。

1. 身体構造、生理機能を理解する。
2. 様々な疾病や障害の病態生理、症状、治療を理解する。
3. がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病、支援制度を理解する。

### 授業の概要

子どもも大人も人の体は構造、機能ともに複雑であり、また、色々の器官が互いに作用し、内外からの刺激に対して、体の状態はある範囲で変動しながら（揺らぎ）、一定の状態を保つ恒常性（ホメオスタシス）を有している。この恒常性が崩れると病気（疾病）が引き起こされる。また、心と体はお互いに強く作用し、健康にも影響を与えることがあり、ストレスにより多くの病気が引き起こされる。病気とは言えなくても、ストレスが原因で体に症状が現われたり、逆に病気が心身に影響を与えることがある。医学の発達により病気の解明が進み、病態や症状が理論的に説明できることもあり、丸暗記ではない知識を身につけることが可能であると考えられる。また、近年治療法の改善で、難治性の疾患を持ち治療しながら学校、社会生活が可能となり、それらをサポートする体制の改善や社会の理解も必要とされている。このような背景から、まず人の体についての基本事項を理解し、それを基礎として病気（疾病）の理解を深め、さらに、心や社会との関わり、支援についても学ぶ。

### 授業計画

- 1 生物としての人:生物学的特徴、生化学的特徴
- 2 人体の構造と生理 (1) 骨格筋 脈管
- 3 人体の構造と生理 (2) 神経 感覚器
- 4 人体の構造と生理 (3) 呼吸器 皮膚
- 5 人体の構造と生理 (4) 消化器
- 6 人体の構造と生理 (5) 血液 リンパ 免疫

- 7 人体の構造と生理 (6) 腎尿路 生殖器 内分泌 代謝
- 8 人体の疾病 (1) 病態 症状 (2) 循環器
- 9 人体の疾病 (3) 消化器
- 10 人体の疾病 (4) 呼吸器 (5) 腎尿路 生殖器
- 11 人体の疾病 (6) 内分泌 代謝 (7) 整形外科
- 12 人体の疾病 (8) 感染症
- 13 人体の疾病 (9) 神経筋 感覚器 心身症
- 14 人体の疾病 (10) 血液 免疫 アレルギー
- 15 人体の疾病 (11) がん 難病 認知症

### 授業の方法

スライド講義を中心とする。スライド資料、参考資料を配布するので講義内容を復習し、提示された課題のレポートを作成する。新聞、ネット、雑誌などの健康、病気に関する情報をチェックしておく。

### 準備学習

Webで参照すること。

### 課題・評価方法、その他

①課題  
講義内容のまとめ、提示課題のレポートの提出（全2回以上）を求め、講義の中でフィードバックを行う。

②評価方法について、  
平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

講義は前回の内容を理解している事を前提に進めて行くので、連続性が必要で、欠席は減点対象とする。但し、一般的に出席停止（インフルエンザなど）となるものは欠席としない。欠席は3点減点、遅刻は1点減点。

### テキスト

テキストは特定の本は指定しない。基本的には講義内容とその配布資料とする。

### 参考図書

一般雑誌ではあるが、Newton 別冊 巧みな構造としくみがよくわかる！ 人体完全ガイド 改訂 第2版